

2020年度後期 講義概要

授業科目名	地域論					
主担当教員名	兼重努					
配当学年 等	医学科 第1年次 看護学科第2年次					
学習目標	(1)本学と特に関わりの深い滋賀県、および滋賀県民に関する知識と理解を深める。 (2)各自がオリジナルなmy地域論を立ち上げる。 (3)地域の特色を自力で調べる為に必要なスキルを学びとる。					
授業概要	自分で問いを立てて、文献資料を調べたり（もし余力があればフィールドワークを行ったり）する事を通して、滋賀県の地域的特色および地元の方々の暮らしや思いについて理解を深める。					
授業内容	(1)現在の滋賀県や滋賀県民の暮らし・精神世界、および(2)滋賀県あるいは滋賀県民に対する自己・他者イメージなどを対象に、受講者自身がテーマを設定の上調査を進め、各自がオリジナルなmy地域論を構築していく。					
年月日(曜)	時限	担当教員	項目	内容	課題有・無	授業形式(原則、対面。)
令和 2年10月08日(木)	15:00~16:00	兼重努	ガイダンス	地域論の実例紹介	有	対面
令和 2年10月15日(木)	15:00~16:00	兼重努	受講生による進捗状況報告1	問いの設定	有	対面
令和 2年10月22日(木)	15:00~16:00	兼重努	受講生による進捗状況報告2	問いの設定 参考文献調査	有	対面
令和 2年10月29日(木)	15:00~16:00	兼重努	受講生による進捗状況報告3	調査内容の報告と討論	有	対面
令和 2年11月05日(木)	15:00~16:00	兼重努	受講生による進捗状況報告4	調査内容の報告と討論	有	対面
令和 2年11月12日(木)	15:00~16:00	兼重努	受講生による進捗状況報告5	調査内容の報告と討論	有	対面
令和 2年11月19日(木)	15:00~16:00	兼重努	受講生による進捗状況報告6	調査内容の報告と討論	有	対面
令和 2年11月26日(木)	15:00~16:00	兼重努	受講生による進捗状況報告7	調査内容の報告と討論	有	対面
令和 2年12月03日(木)	15:00~16:00	兼重努	受講生による進捗状況報告8	調査内容の報告と討論	有	対面
令和 2年12月10日(木)	15:00~16:00	兼重努	受講生による進捗状況報告9	章立て案の報告と討論	有	対面
令和 2年12月24日(木)	15:00~16:00	兼重努	受講生による進捗状況報告10	パワポスライド案の報告と討論	有	対面
令和 3年01月07日(木)	15:00~16:00	兼重努	成果発表会の予行練習1	発表会の予行練習(第1回)	有	対面
令和 3年01月21日(木)	15:00~16:00	兼重努	成果発表会の予行練習2	発表会の予行練習(第2回)	有	対面
令和 3年01月28日(木)	15:00~16:00	兼重努	成果発表会1	成果発表会(第1回)	有	対面
令和 3年02月04日(木)	15:00~16:00	兼重努	成果発表会2	成果発表会(第2回)	有	対面
授業形式・視聴覚機器の利用	<p>本授業では教員の講義を受身の姿勢で聴くというスタイルはとらず、皆さんの発表と質疑応答を主体とする。自分でテーマを見つけ、具体的な問いを立てる。自ら図書館へ通ったり、(コロナ禍が収束した場合)余裕があればフィールドワークをしたりして資料を集め、問いの答えを探る。毎回レジメを作成した上で進捗状況を発表し、受講生同士で質疑応答を繰り返す。</p> <p>教員は、問いの立て方、資料の探し方、フィールドワークのやり方、分析方法、まとめ方、レジメの書き方などについて適宜助言する。</p> <p>年明けに、成果発表会のプレゼンテーションの予行練習を行う。成果発表会では、学習の成果をパワーポイントを使って披露する(成果発表会を開催するか否かはコロナ禍の状況をみて判断する)。成果発表会で寄せられたコメントや質問を踏まえて、発表内容をバージョンアップさせ期末レポートにまとめる。</p>					
評価方法	<p>成果発表会用の資料(パワポスライド)の出来具合・・・50%</p> <p>期末課題レポート……………50%</p> <p>受講生には毎回、進捗状況の報告と他の受講生の報告に対するコメントが義務づけられている。そのため、無遅刻・無欠席を前提とする。やむを得ない理由で遅刻・欠席する場合は事前に兼重まで連絡すること。</p> <p>出席状況・宿題提出状況・受講態度などに問題あれば、程度に応じて減点する。</p> <p>なお、課題レポートに剽窃(盗用)その他不正行為があった場合は単位を認定しない。詳細は授業で説明する。</p>					
教科書・参考文献	<p>●教科書：使用しない。プリントを配布する。</p> <p>●参考文献：以下の書籍は文献探索、アンケート調査、フィールドワークやプレゼンの際に非常に役に立つので、一読しておくことが望ましい。</p> <p>*池上 彰 2010『〈わかりやすさ〉の勉強法』講談社現代新書2054</p> <p>*酒井 隆 2012『アンケート調査の進め方』<第2版>日経文庫1271</p> <p>*宮内泰介 2004『自分で調べる技術 市民のための調査入門』岩波アクティブ新書117</p> <p>*吉本哲郎 2008『地元学をはじめよう』岩波ジュニア新書609</p> <p>*小笠原喜康 2003『インターネット完全活用編 大学生のためのレポート・論文術』講談社現代新書1677</p> <p>*井上真琴 2004『図書館に訊け!』ちくま新書486</p> <p>*千野信浩 2005『図書館を使い倒す! ネットではできない資料探しの「技」と「コツ」』新潮新書140</p> <p>*岩波書店編集部編 2004『フィールドワークは楽しい』岩波ジュニア新書474</p> <p>*今和次郎 1987『考現学入門』ちくま文庫</p> <p>*平林 純 2009『論理的にプレゼンする技術 聴き手の記憶に残る話し方の極意』サイエンス・アイ新書103 ソフトバンククリエイティブ</p> <p>その他の参考文献は随時紹介する。</p>					
学生へのメッセージ	<p>(1) 授業時間等の詳細に関して、学生課からの最新通知メールを必ず確認して頂き、授業時間等間違えの無い様ご注意ください。</p> <p>(2) 今後のコロナ禍の状況によっては、成果発表会の開催をとりやめる場合もあります。</p> <p>(3) 受講者数や今後のコロナ禍等の状況に応じて、授業のスケジュール等を調整する場合がありますので、あらかじめお含みおき下さい。</p>					